



特集 “学びの多様化学校”の開校にむけて

学びの多様化学校 とは

(いわゆる不登校特例校)

学校に行きにくさを感じている児童・生徒を対象として、文部科学大臣が認める場合に、その実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施する学校のこと。

令和5年度時点で、全国で24校が設置されています。

(公立学校14校、私立学校10校)

令 令和7年4月1日、美作市に新しく「^{あらさき}学びの多様化学校」(美作市立横学園)(中学校)が開校します。中学校に通えていない生徒や中学校への「行きにくさ」を感じている生徒が通える学校です。

学びたい気持ちはあるのに、学校に通えない…。そんな気持ちを抱えた中学生が、自分のペースで、自分の学びたいことと向き合える場所が、美作市に誕生します。

今回の特集では、「美作市立横学園」の概要や特色、そして、美作市の未来を担う子どもたちが学びの機会を失うことなく、一人の自立した大人へと成長できるように、横学園が果たす役割について紹介します。

全国的な「通えない」児童生徒の増加

近年、全国的に小・中学校での長期欠席・不登校児童生徒の増加が続いており、美作市でも、30日以上欠席した児童生徒の出現率が県平均を上回るなど、大きな課題となっています。

国は、不登校児童生徒の増加を受け、「学校に戻す」ことをゴールとせず、「個々の児童生徒の状況に応じた必要な支援を行う」ことを目指し、教育機会確保法の中で、国や地方公共団体での「学びの多様化学校(不登校特例校)」の整備が努力義務であると規定しました。

中国地方初の公立「学びの多様化学校」

美作市では、美作市教育研修センター「美作塾」や各校の別室教室で様々な支援を行っています。依然として学業の遅れや在籍校への復帰が困難であるなどの課題があります。そこで、不登校児童生徒に対する多様な教育機会を確保するため、中国地方で初となる公立の「学びの多様化学校」、美作市立横学園を令和7年4月に開校することとなりました。

将来的な単独校への移行を見据えつつ、不登校生徒への教育機会の充実を段階的に図れること、施設整備や関係者間の調整などの負担が比較的小さく、速やかな設置が可能ことから、当面は分教室として設置・運営をしていきます。

美作市立^{あらき}樸学園はこんな学校です

名称

美作市立^{あらき}樸学園(中学校)

開校日

令和7年4月1日

開校場所

作東総合支所1階(江見945)



設置形態

市内の中学校の分教室※として設置します。

(将来的に入学希望者が増えれば、単独校に切り替える)
予定です。

※分教室…本校から分離し、他の建物の一部を使用して設置する教室のこと。

定員

24名(各学年8名程度)

学びたい生徒が1名でもいれば、入学を受け入れて授業を行います

入学対象者

- ▷年間に継続または断続的に30日以上学校を欠席している生徒
- ▷教室以外の別室に登校している生徒
- ▷在籍校には登校できず、美作塾やフリースクールなどに通所している生徒
- ▷登校できるが、遅刻や早退が多く、情緒や体調が不安定な生徒 など

学校への行きにくさを感じている生徒が対象です。

樸学園のコンセプト

1

教室のコンセプト ～ありのままでいい教室～

- さまざまな理由で学校に行きにくさを感じている中学生が対象です。
- 学校生活を行ううえで必要なルールは、あなたが決めます。
- あなたとあなたの保護者、教職員との信頼関係を大切にします。

2

学びのコンセプト ～教えない教育～

- あなたが1日のスケジュールを決めて学びます。
- あなたが学びたい先生を選んで、学ぶ場や学びたい内容の支援を求めます。
- あなたが小学校で学び残した基礎学習は、学び直しを行います。

3

学習環境のコンセプト ～したいことがかなえられる場～

- 居心地のよさを基本にします。
- あなたの調子に合わせた学びの場を用意します。
- 地域と連携し社会性が身につけられるようにします。

Interview



美作市教育委員会
教育長 福田 昌弘

「学びの多様化学校」美作市立樸学園の開校にあたり、美作市教育委員会の福田昌弘教育長にお話を伺いました。

——美作市立樸学園とはどのような学校なのか、教えてください。

樸学園では、コンセプトとして「ありのまま」ということを大きなキーワードにしています。「ありのまま」とは、「学校に合わせなくてもいいですよ」「今の自分、そのままで学びましょ」ということです。「これをしなさい」と指示をされる関係ではなく、「理科が好きなので理科を中心に勉強する」「私は数学を中心に頑張りたい」というような「自分で学びに向かう」姿勢を持って来てほしいと考えています。

そんな思いの生徒に対して、「どんな学校だったら行きたくなるか」ということをベースにして、学び方・通い方や授業の内容などを用意しているというですね。

——設置に至る経緯や、学校を作る目的について教えてください。

教育大綱の基本方針・理念の中に、「障がいの有無にかかわらず、将来を見据え、その夢を実現していく」ということが謳われています。「障がいの有無にかかわらず」ということで、当初は特別支援学校の設置を計画していましたが、8人の生徒を10年間維持するという定員の推計が市の現状を踏まえると難しく、断念せざるを得なくなりました。

しかし、学校への「行きにくさ」を感じている子どもたちの中には、特別支援に該当するような子どもも含まれていました。今回開校する「学びの多様化学校」では、障がいの有無にかかわらず、「本当は勉強をしたいけれども学校には行きにくい」と感じている子どもたちを受け入れられるような学校にしようということから、「学びの多様化学校」美作市立樸学園の設立に至りました。

「学びの多様化学校」では、定員の維持は求められていません。1人の先生が個別に対応するために最適な人数として、1学年8人程度でスタートできればと考えていますが、入学希望者が1人だったとしても授業を行いますので、そこが支援学校との大きな違いですね。

——「行きにくさ」を感じていれば、入学対象となるのでしょうか？

「行きにくさ」があるから欠席が増える、という前提で、統計上も30日以上を長期欠席という形でカウントしていることから、そこを目安にして判断します。

現状、美作塾やフリースクールを利用している子や、学校に通いながらも普通教室には入れず別室で勉強をしている子たちも、続けて学校に通えておらず、樸学園で学びたいということになれば、柔軟に受け入れたいと考えています。

ただ、せっかく樸学園へ来たけれども、ここでも同じように行きにくくなったとなれば、本人にとっては非常に辛いことだと思うので、こちらからできるだけの支援はしますが、本人に学びたいという意欲がどの程度あるかというのは、大きなポイントだと思いますね。

——授業時間や学習内容など、通常の学校との違いや特徴を教えてください。

中学校では、通常1〜3年まで、年間にそれぞれ1,015時間の授業を計画しています。学びの多様化学校ではそこを弾力的に増減させることが認められているので、樸学園では授業時間を年間770時間とし、1週間のうち4日は4時間の授業、週1日だけ5時間、といった時間割りを計画しています。その中で、教科を横断して学ぶ、探求の時間をしっかりと取るなど、割り当てられた時間の中で多少の組み合わせをしながら学べるという

ことも、大きな特徴の一つです。

実際には生徒一人一人に合わせて授業を組んでいくような形になるので、通常は「今日はこの授業をして、この勉強をします」となるところを、「ここでは『今日どんな勉強をするか、どんな時間割にするかを相談しよう』という形になります。3年間で学び残しがないように、足りてないところはきちんと補えるようにしていきますが、まずは興味のある内容を深めていくことを基本とします。

登校をする日や時間についても、1日4時間でいいということになれば、始業時間をずらしたり、どうしても今日は学校に足が向かないとなれば、午前中は休んで、午後からでもやってみようという気が起きれば、そこはオンラインでやってみましょというような、柔軟なやり方でもできると考えています。

行きにくくなっている理由として小学校のときの勉強をやり残しているということであれば、そこも勉強していけるようにします。

——開校場所が作東総合支所になった決め手はなんですか？

市内全体から生徒が集まることを考え、地理的に最適な場所を絞り込んでいきました。その中で使用できる施設はどこかと考えたときに、作東総合支所の1階に使われてない部屋が多くあり、目標

としている広さともうまく重なるため、ここへ作るのが一番だと辿り着きました。

学校施設として必要なものが周辺にあるということも大きなメリットで、図書館や体育館、プールやグラウンドなどの施設をそのまま必要に応じて利用できるため、新たに図書室や体育館などを建てる必要ありません。

また、なぜ現状の学校の中に作らないかと言えば、学校に行きにくいと感じる生徒にとっては、やはり学校というものに対するイメージが固まってしまうて、校門や教室を目にすることで足が進まなくなる子もいます。そういったイメージを払拭してあげるとい意味でも、作東総合支所のように、もともと庁舎や文化交流のための施設として整備されていて、学校のイメージから遠のくような場所が最適なのではないかと思っています。

——**樸学園という名前に込められた、意味や想いをお聞かせください。**

「ありのままでもいいよ」という「コンセプトを、学校の名前にも重ねたい」という思いがありました。「ありのまま」に重なるような言葉はないだろうかといういろと探す中で、多くの漢字の中から「樸」という字を見つけました。もともとは「切り出したままの木」を意味する言葉で、それが転じて「ありのまま」という意味があります。読み方は少々難しいのですが、そこか

ら」どついう意味ですか」と関心を持っていただければと、漢字のまま、ふりがなをつけて表記することにしました。

「切り出したままの木」も、手を加えていくことで板や柱などに形を変え、それぞれの場所で活躍していきます。人を育てるのも同じことで、人と関わりながら育つていけば、将来自立を目指していけるというところも重ねられる部分だろうと思っています。

——**「学びの多様化学校」ができることで、美作市の教育がどのように変わっていくか、今後の展望をお聞かせください。**

これは樸学園だけでなく、すべての学校で取り組みを進めているところですが、子どもたちが、自分のやりたいこと・学びたいことを選ぶようになっていくことで、自分を大事にする子どもになってほしいと考えています。

将来的に子どもたちが社会的・経済的に自立していくため、自己実現のためのサポートを学校が担わないといけません。それは「学びの多様化学校」だけに課せられているものではなく、すべての学ば場と同じように保障できることが一番大事なことです。

そのための一つの形が「学びの多様化学校」であり、ここでの学び方が、他の小学校・中学校における一つのモデルになってくれたらと考えています。